

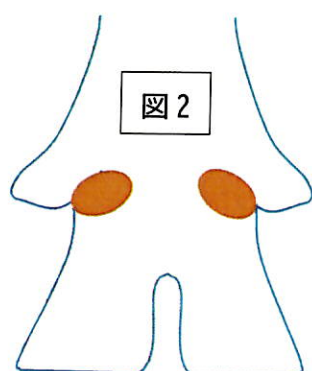
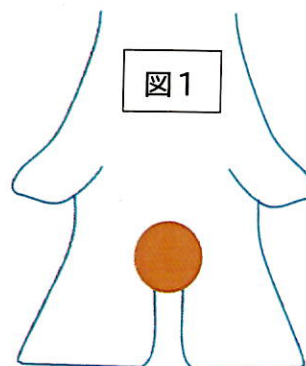
国際蹄病学会でミネソタに行かせていただきました

阿部紀次

2018年、私が吉岐から酪農学園に移った理由の一つが、2019年の国際蹄病学会の東京大会を運営する護蹄研究会（ゴテイケン）の副会長だったので、どうしても札幌近郊にいる必要がありました。

おかげで東京大会は無事終了し、次は2年後2021年ミネソタ大会を迎えるはずでしたが、新型コロナ（新コロ）のおかげで今年に延びました。昨年からゴテイケンの会長を任されたこともあり、前回大会で他国の研究者とも気心が知れ、今回は行かせてもらいたいと THMS には無理を言いました。「ただし、誰か若い獣医師を連れて行く」条件が付き、富田獣医師（Tさん）が同行しました（他にも畜産系の通訳、牧さんも）。結果的にこのツアーの全体像からいうと、新コロに対する日本国の対応（帰国時の水際対策）がキツくて、私の他2人はPCR+となり、約10日の足止めを食らってしまい、予定は多狂いしてしまいました。が、会いたかった人や、見たかったものは大方期待通り行うことができました。

会いたかった人の最初は Dörte Döpfer（ドルテ）先生です。ウイスコンシン大学に行き、ドルテ先生の趾皮膚炎（DD）の再現試験に立ち会いました。ドルテ先生はDDの第一人者で、主たる原因菌であるトレポネーマを培養することができます（トレポネーマ自体はとても弱く繊細で、培養ができる研究所は数少ない：日本では宮崎大学のみ）。DDは、トレポネーマ単独の感染症ではなく、“複合感染症”と言われています。要するに、他の細菌はトレポネーマが皮膚に侵入することを助ける役割をするのです。ドルテ先生は過去にトレポネーマだけで再現試験を成功させています。健康な足先の、いつもDDが起る位置にトレポネーマを塗り付けても再現でき



ませんでした（図1）。しかし、その実験を進めていくうちに、トレポネーマを塗り付けた場所とは異なる、副蹄の付根で発症しました（図2）。包帯の締め付けにより、皮膚がダメージを受けていたからだということが分かりました。今回の実験では皮膚のダメージを“ふやけ”で再現していました。しめらせたスポンジを趾端に巻き付けてプラスチックのブーツを履かせて1週間置いた後にトレポネーマを含んだシリコンパッチを貼り付け、ブーツを履かせて1週間置いたところに我々が立ち会いました。ほぼ80%の足にDDが発症していました（まだ試験中でもあり、写真を掲載することはできません）。この実験は、50頭の去勢牛に発症試験を行い、発症した牛を、健康牛群に入れたときの感染拡大の様子を観察することを目的としているようでした。去勢牛100頭を使った大掛かりなものです。このよ



うな実験ができるのもさすがウイスコンシン大学だと言えます。



その後、国際蹄病学会本会に移動し、次にお会いしたのが Nigel Cook (クック) 先生です。クック先生は、同じくウイスコンシン大学で、世界的な牛舎設計

(安楽性) や跛行 (はこう) の分野をリードしている先生です。クック先生にお会いする目的は、ウイスコンシン大学のホームページの中にあるクック先生が担当されている DairyLand Initiative というコーナー (約 100 ページ) の日本語訳を、ゴテイケンの HP に掲載することへの了承を取り付けたいと考えての事でした。



クック先生は、「ゴテイケン HP への掲載だけでなく、すべての日本語訳がそろったら、今度は本家本物の DairyLand Initiative に日本語版を引っ付けさせて欲しい。」と、逆をお願いされた次第。ここでも先生と呼ばれる人の度量の大きさを実感しました。

他にも削蹄会を引っ張っている Karl Burgi (カールバーギ) 先生と会って、世界で主流になる可能性がある“削蹄用記録アプリ：ムーグル”の日本語版開発についても話し合いができました。今回のミッションは本当に上手くいきました。

それらの“交渉事”のために今回通訳牧さんに同行願ったのですが、結果的には大正解でした。とにかくツアーコンダクターとして、新コロ関係でのスタモondaを全部解決して下さり、Tさんが期日通り (実は1日早め) に帰国できたのも牧さんのおかげでした。

今後も牧さんは THMS の英語に関するお困りごとを担当していただけるようですので本当に心強い存在です。若い獣医師、授精師たちにも英語のコンプレックスを乗り越えて、その先にある“本当の実”を掴んでほしいと願います。

最後になりましたが、長期留守にして、皆様にも少なからずご迷惑をおかけしたのではと思い、お詫びと感謝を申し上げます。とにかくありがとうございました。



ご参考までに、護蹄研究会 HP



と DairyLand Initiative